

シリーズ 善光寺を語る。

善光寺に縁のある著名な方から善光寺にまつわる体験や思い出をつづっていただきます。
Vol.3以降は、随時、信濃毎日新聞に掲載されます。



NEWS LETTER

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 事務局 ■ 公益社団法人 長野青年会議所 内
Tel : 026-228-3260
http://www.sekaisan-zenkoji.jp/

シリーズ 善光寺を語る。Vol.1



千住 博さん
(日本画家)

1958年生まれ。東京藝大日本画科卒業。同大学院修了。国際的に活動し、ベネチア・ビエンナーレ名賞賞、イサム・ノグチ賞など受賞。軽井沢千住博美術館にて常設展開催中。

「善光寺の体験」

一口に仏教と言ってもいろいろあります。私が襖(ふすま)絵を手掛けさせていただいた大徳寺聚光院(京都市)は茶の聖地。屏風を奉納させていただいた薬師寺は中国からの一大文化センターのような所。そして2020年に障屏(しょうへい)画を奉納させていただいた高野山金剛峯寺は心をリセットするために世界から多くの方が訪れる聖地でした。その奥の院ではまだお大師様が確かに存在されている、と確信もしました。さてその中、善光寺では興味深い体験をしました。ご本尊真下の暗い回廊の中に入り、手探りで進み、再び光の世界に戻るといふのです。私はこの体験がいくつものとても大切なことを気付かせるものだったと強く記憶しています。他のどの寺とも異なる善光寺の魅力を一言で語ることは至難ですが、それでも言えることは市井の人々に最も愛されている聖地であり続けているという事でしょう。それを語るのが門前町の隆盛なのでしょう。すばらしい善光寺とご縁があることは、私の誇りです。

シリーズ 善光寺を語る。Vol.2



石井 幹子さん
(照明デザイナー)

都市照明からライトアップまで幅広く活躍。日本を代表する照明デザイナー。東京タワー、レインボーブリッジ他。国内外から受賞多数。2000年紫綬褒章受章。19年文化功労者顕彰。

「貴重な存在・善光寺」

2003年、はじめて善光寺様を訪れた私は、当時の長野青年会議所の主要メンバーの方々と、「善光寺5色のライトアップ」のイベント開催のお願いのため、ご説明に伺いました。当時、冬季オリンピック開催5周年記念として、新しい光のイベントを計画中だったのです。資金難だった私達は、善光寺様に、京都のお寺のように、入場拝観料を設置することを進言したのです。「善光寺は昔から、すべての人に開かれた寺なのです。」。困いを作って、入場料をとることはできないというお答えに、私は感動しました。すべての人に開かれた、誰でもいつでも訪れることができるお寺こそ、貴重な存在なのだ、長い年月にわたる歴史も理解できました。「善光寺5色のライトアップ」は、その後「長野灯明まつり」として今日まで続いています。私もこのイベントにいつも携わって、毎年当時のメンバーの方々と、門前町の宿坊で顔を合わせるのを楽しみにしています。

講演「江戸時代の善光寺」

善光寺の世界遺産登録をすすめる会は2020年11月22日、長野市のホテル国際21で、講演会「江戸時代の善光寺」を開きました。地元の貴重な文化財に関心を深めようと、約20人の市民が参加。信州大学名誉教授の牛山佳幸さんの講演を聴いて知識を深めました。講演の概要を紹介します。

松代藩士が記した「朝陽館漫筆」



信州大学名誉教授
牛山 佳幸(うしやま よしゆき)氏

1952年生まれ、上伊那郡辰野町出身。1990年信州大教育学部助教授、2001年同教授、2018年に退官後も日本全国で講演活動。専門は古代中世史、仏教史、宗教史。著書に「古代中世寺院組織の研究」「善光寺 心とかたち」(共著)など。

19世紀 幅広い内容の随筆

本日は、江戸時代に記された二つの史料を通して善光寺の姿を垣間見ていきます。まず一つ目は、江戸時代の松代藩士、鎌原桐山(かんばら・とうざん、1774~1852年)による随筆「朝陽館漫筆」(ちょうようかんまんびつ)です。桐山は6代藩主真田幸弘(ゆきひろ)、7代幸専(ゆきたか)、8代幸貫(ゆきつら)の3代に仕え、1823~36年に家老を務めています。江戸で儒学者の佐藤一斎に学んだ桐山は、松代で私塾の「朝陽館」を開

きました。桐山は、山寺常山、佐久間象山と並んで「松代三山」と言われ、江戸時代後期の松代藩で高い見識を持った学者の一人です。朝陽館漫筆は、1808~1851年という長期にわたって書かれており、非常に幅広い内容です。出来事を記した日記やうわさ話、ゴシップ、妖怪談、本の感想など、雑多な文章の寄せ集めで、全部で164巻もあります。これらは真田宝物館に所蔵されており、一部は刊行もされています。

御開帳には3種類があった

その中に善光寺に関連する部分は20カ所あり、御開帳についての記述が3カ所あります。最初は1811(文化8)年で、常念仏の五万日回向(えこう)で開かれた、とあります。次は1821(文政4)年で、前年の江戸の出開帳の終了と、常念仏の五万五千日回向。そして1840(天保11)年、屋根修理完成の回向として開かれた、となっています。この記述から、江戸時代後期の御開帳がどういふときに開かれたかが分かります。まず、善光寺が各地を回って行く出開帳です。出開帳には全国を回る回国開帳と三都(江戸・京都・大

坂)開帳があり、その目的は、造営や修理の費用調達でした。回国開帳と三都開帳はセットで行うのが通例で、江戸時代には7回実施されました。善光寺での居開帳は、出開帳の終了後もしくは念仏堂の常念仏が一定の回数に達した記念として行われました。念仏堂は三代の将軍像を安置する重要な建物で、鎌倉時代に源頼朝の妻、北条政子が寄進したといわれ、現在は甲府の善光寺に残されています。この念仏堂では「南無阿彌陀仏」を唱える専属の僧がいて、4時間おきに念仏を唱えていました。その念仏(常念仏)が5万回に達するなどの節目に御開帳を行う習わしがあったようです。これらと別に、日常的な「御開帳」もありました。夏場の4月8日~7月7日に、朝と昼の2回、担当の僧が本堂で読経(勤行)を行う際に、本堂の阿彌陀三尊像の掛け軸を掛けました。前立本尊ではないので、今の御開帳とは違いますが、これも「御開帳」と言ったそうです。御開帳が「七年に一度」となったのは、1888(明治21)年以降のこと。それ以前は5年おきに行われたこともあり

すすめる会会員一覧

すすめる会は、ご覧の会員の皆さま方からの年会費によって活動しております。

インフォメーションネットワークコミュニティ	鈴木土地	長野県経営者協会	長野東ロータリークラブ	淵之坊
エーシー工設計	炭平コーポレーション	長野県建築士事務所協会	長野放送	ベイックコーポレーション
FMぜんこうじ	駿専青木商店	長野県社会保険労務士会	長野ユネスコ協会	増田商会
エムケー精工	善光寺木遣り保存会	長野県信用組合	長野ロータリークラブ	松澤工業
カシヨ	善光寺事務局	長野県信用農業協同組合連合会	中村建築研究所	マナテック
北野建設	善光寺まちづくり会議	長野県中小企業団体中央会長野支部	中山法律事務所	マルイチ産商
倉田博光会計事務所	第一建設工業長野支店	長野市電設業協会	夏目	萬住亭
国際ソロプチミスト長野みすず	タカチホ	長野商工会議所	Nikki Fron	ミツワヤンマー
西條被服	高野総本店	// 篠ノ井支部	日新電機製作所	宮本忠長建築設計事務所
システックス	滝澤無線	// 松代支部	日本旅行 長野支店	元善町
信濃毎日新聞社	長印	長野商店会連合会	野村證券 長野支店	山田記念朝日病院
シューマート	テレビ信州	長野信用金庫	白鳥ハレ工学園	八幡屋儀五郎
信越定期自動車	電算	長野青年会議所	八十二銀行	
信越放送	長野朝日放送	長野トヨタ自動車	八十二文化財団	
信州製袋	ながの観光コンパニオンビューロー	長野トヨペット	福澤商店	
信防エディックス	長野北ロータリークラブ事務局	長野西ロータリークラブ	藤森建設工業	(50音順)

2021年2月現在 ※表記等で間違いや訂正などございましたら事務局までご連絡ください。

編集後記

2020年初旬から新型コロナウイルスが猛威を振るい、長野市では数多くのイベントが中止となり、信州善光寺も御開帳を一年延期し、2022年に開催することとなりました。本会はニューノーマルが進みつつある社会情勢においてWEB上で「善光寺縁起の絵解き」を世界に向けて配信する事業を展開するなど、長野県初の世界遺産登録に向けて邁進してまいります。本会を支えていただいている会員の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。



本堂が東向きだった時期があった？

「朝陽館漫筆」には、「善光寺如来像古来東向きにてこれあり」という記述があります。この伝説に依拠して、中世には本堂が東向きであったとする説があるのですが、確実な史料では、そのことを示す根拠はまったくありません。一方で、中世から本堂が南向きであったというのは、いろいろな状況証拠があります。

例えば「大門」という地名。大門というのは南大門、つまり、正面の入り口のことで、本堂は南を向いている、ということです。また、室町時代には、善光寺の参道に守護や守護代の館が作られました。それが、豊御所(問

御所)、中御所の地名の由来だと私は考えています。これも、本堂が南向きであったことを示しています。

もし、本堂が東を向いていた時期があったと仮定すれば、可能性があるのは江戸時代の初期。この時代は仮堂だったからですが、それでも史料を見てみるとやはり無理があります。例えば、祖父の代まで善光寺大本願の代官を務めた家柄の小宮山胤頼(こみやまたねより)という人が書いた「元禄前の善光寺」という書物には、「如来堂南面」と書かれています。その他の史料も同様であることから、私は、本堂が東向きだった可能性は、ほとんどないと見えています。

庶民の善光寺参りの様子を記録「善光寺道之日記」

近江から信州へ 67歳女性の旅日記

江戸時代後期に圓月祐清尼(えんげつゆうせい)という女性が記した道中記「善光寺道之日記」は、庶民階層の善光寺詣での様子が克明に記録されています。この時代、物見遊山で楽しんでちゃんと記録をとっている人が実にたくさんいて、その生真面目さには驚くと同時に、日本人の優れた点だと敬服します。

同日記は横15.1cm、縦9.5cmの袋とじで、表紙に題名と出発日があり、そ

の日付は1857(安政4)年4月23日とあります。裏表紙に作者名と年齢(67歳)が記されています。きれいな字で書かれ、誤字脱字も少ないことから、帰郷後に書かれたのでしょう。この女性は他にもいろいろと旅行をしていて、その記録を残しています。

作者は庶民、といってもかなり裕福で、近江商人を代表する豪商の家の人です。「扇屋森五郎兵衛」(おうぎやもりごろうべえ)家の5代目当主の長女で、男のきょうだいがなかったため、入り婿をとって跡を継ぎ、夫の

雷電らの相撲興行も

「朝陽館漫筆」には、善光寺堂庭の大相撲という記事もあります。堂庭は今の仲見世通り周辺で、そこはさまざまなイベントが行われる会場でした。その一つが江戸相撲の興行だったというわけです。鎌原桐山が見たのは1812(文化9)年の9月に行われた興行です。東御市出身の雷電為右衛門による「雷電日記」にも、善光寺での興行の記録があります。

「犬の善光寺参り」を伝える記述には、1840(天保11)年、同じ松代藩士の恩田家に黒毛の雌犬が現れた、とあります。犬の首には「上州草津村の犬であり、善光寺に詣でるために来た。よろしくたのみます」「7月9日に参詣が済みました」という札が掛けられてあり、恩田家ではこの犬に食事を与えて、千曲川の渡し船に乗せてやったそうです。飼い主のもとに戻ったかどうかは不明ですが、江戸時代には同様に、人の代わりに犬を寺社のお参りに遣わせた話が数多くあります。

死後に出家して、圓月祐清尼を名乗ったようです。

善光寺への旅は、女3人、男3人の計6人で出かけ、往路14日、復路19日の計33日間の旅行でした。

厳しい関所を避け、決められた宿へ

往路ルートは、近江八幡から中山道を進み、馬籠宿(岐阜県中津川市)から大平峠(飯田市)を越えて飯田宿へ。伊那街道から善光寺街道を通して善光寺へ向かいました。復路は善光寺街道から伊那街道を通して

飯田宿で脇往還の姫街道を進み、吉田宿(愛知県豊橋市)から東海道に入って、熱田宿から美濃路を通り名古屋宿へ。海路で桑名宿に渡り、再び東海道で守山宿。朝鮮通信使が使う特別な道「朝鮮人街道」で近江八幡へ戻りました。

馬籠宿からそのまま中山道を進まず、大平街道へ折れたのは、福島宿(木曾郡木曾町)の関所での厳しい「女人改め」(入鉄砲出女の取り締まり)を回避するため。庶民である彼女たちは「往来手形」は持っていない、入手の難しい「関所手形」は持っていなかったと思われる。

当時は、中山道の木曾福島や東海

道の箱根で行われる厳重な女改めを避けて女性が目的地まで旅行できるシステムができあがっていました。「女道」という監視の緩い“抜け道”があり、地元には手引きをする人もいて、そうした情報が広く伝わっていたようです。

善光寺に到着した一行は、光明院に投宿しました。当時は「郡割(こおりわり)」といって、どの国の何郡から来た人はどこに泊まる、ということが決められていました。一行はそれに従って光明院に泊まったようです。善光寺では夜更けまで本堂で過ごし、前述の通り朝、昼に連日行われていた「御開帳」も見えています。そうした

お参りの様子は、当時の基本的なスタイルだったようです。

旅行ブームで格好の目的地

彼女たちが善光寺詣でをした江戸時代後半は、一大旅行ブームが起きていた時代でした。主要街道や宿場が整備され、庶民にも余裕が生まれたことに加え、「御師」と呼ばれた旅行業者の活動、木版画技術の進展による旅行案内図の普及などが背景にあったようです。その中で、善光寺は伊勢神宮(三重県)や金刀比羅宮(香川県)などと並んで各地から参拝者を迎える「旅の目的地」になっていました。

御開帳に来る人たちに 良いおもてなしができるように

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 会長 北村正博

善光寺は日本全国から厚い信仰を集め、長野市の経済発展にも大きな力になっているお寺です。その善光寺を多くの人に知ってもらい、世界遺産登録につながるよう、努力を続けていきたいと思っています。

7年に一度の御開帳は、新型コロナウイルスの影響で1年延期になりましたが、2022年に開催できました折には、また多くの参拝客の皆さままでにぎわうことを期待しております。その時に、遠くから来られた方々に善光寺のことをご案内し、おもてなしができるように、私たちは今からしっかりと勉強を重ねていきたいと思います。



善光寺のすばらしさを 世界に発信したい

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 推進会議 議長 塚田まゆり

本日は牛山先生に貴重なお話をいただき、本当にありがとうございました。

善光寺は、非常に長い歴史がある分、身近にあっても知らないことが多いものです。特に、苦しい道乗り越えて参詣に訪れる女性たちを受け入れてきた善光寺さんには今のジェンダーフリーにも通じる思想が、脈々と受け継がれてきていることに感動いたしました。

今後も、こうして勉強になる機会を持ちながら、善光寺の昔の姿やすばらしいところをたくさん知り、地域の内外、さらには世界に発信していきたいと思っています。



善光寺縁起 絵解き

去る1月29日、善光寺の世界遺産登録をすすめる会では、善光寺の宿坊「淵之坊」で若麻績享則住職による善光寺縁起の絵解きを体験しました。

別名「縁起堂」と言われる淵之坊には、室町・江戸時代などの縁起が代々伝わります。参加者は鮮やかな色が残る現物を間近にし、善光寺の持つ歴史、時代背景そして現在まで連続とつながっている信仰の深さを改めて学ぶよい機会となりました。

善光寺縁起 お問い合わせ ☎026-232-3669(善光寺宿坊 淵之坊)